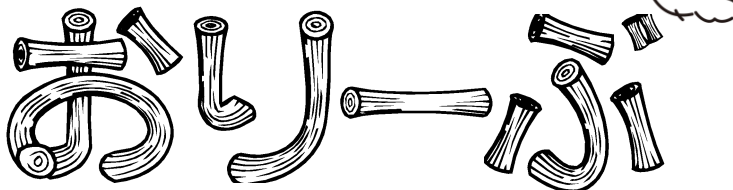




後援会ニュース



第153号  
2024年12月1日発行  
発行所:(福)るうてるホーム  
〒575-0002  
大阪府四條畷市岡山 5-19-20  
発行責任者:大柴譲治

## 「あなたの救い主がお生まれになった」

西日本福音ルーテル北大阪教会牧師 水野賢太

もう気づけば師走のとき。月日が巡る速さに驚かされます。あっという間に2024年も過ぎ去って行きますが、年の暮れにある一つの〈よき知らせ〉を皆様的心にも留めていただきたい。それは12月25日のクリスマス、聖書の語る救い主イエスのお生まれを喜ぶ日。この世で命を授かった誕生日は、毎年わたしたちのところにもやって来ます。

まだわたしが小さかったとき、誕生日を迎えることが待ち遠しかった。家族がわたしの生まれた日を喜び祝い、ご馳走をいただき、贈り物をもらい、とても楽しかった思い出があります。しかしながら大人になり、子育てにも追われる日々を過ごす中で来る誕生日は、それほど嬉しく迎えられなくなっています。確かに、今でも家族は祝ってくれて有難いのですが、わたしとは言えば「またひとつ年をとった。もうこんな年になったのか」という愁いのほうがどんどん勝ってきます。

ところでみなさんはどうですか。来る年ごとに迎えるあなたの誕生日は、いまのあなたにとってどのような日でしょうか。喜びもしくは悲しみが多いですか、それとも「もう、どうでもいい」日になっているかもしれませんね。

ではクリスマスについて、これを祝われるイエス・キリストにとっては喜ばしい日なのでしょうか。聖書が語る場所に依ればイエス・キリストは、いまから二千年ほど前に日本から遠

く離れたパレスチナでお生まれになりました。そしてキリストは、わたしたちの住む日本に来たこともなければ、この国に所縁がある御方でもない。ましてや一度も会ったこともない救い主の誕生日をなぜお祝いしなければならないでしょう。なぜなら聖書に依れば、神の子イエスが人として世に生まれたので、この人となられたキリストをとおして父なる神の救いが現されたからです。

新約聖書のヨハネ1章14節にはこう書かれています。「ことばは人となって、私たちの間に住まわれた」(新改訳聖書)。「ことば」とは、神のみことば。その「ことば」を語り、成し遂げるため、神の子イエスはわたしたちと同じ人なり、世の人々のうちに生き、すべての人のため十字架の上で死んでくださり、その死からよみがえられたのです。わたしも年ごとに来るクリスマスで、救い主イエスのお生まれを心から喜び祝います。イエス・キリストが、わたしのために人となられてよみがえられたからこそ、死が恐れだけでは終わらなくなりました。そして復活の主イエスは、いまも生きて聖書の言葉や祈りをとおして慰め、励ましてくださいます。

この救い主イエスは、あなたのためにも生まれ、死からよみがえられた御方。共にイエスキリストのお生まれを喜び祝い、この方によってわたしたちにも神の救い、よみがえりの喜びがあることを心に深く留めていきましょう。



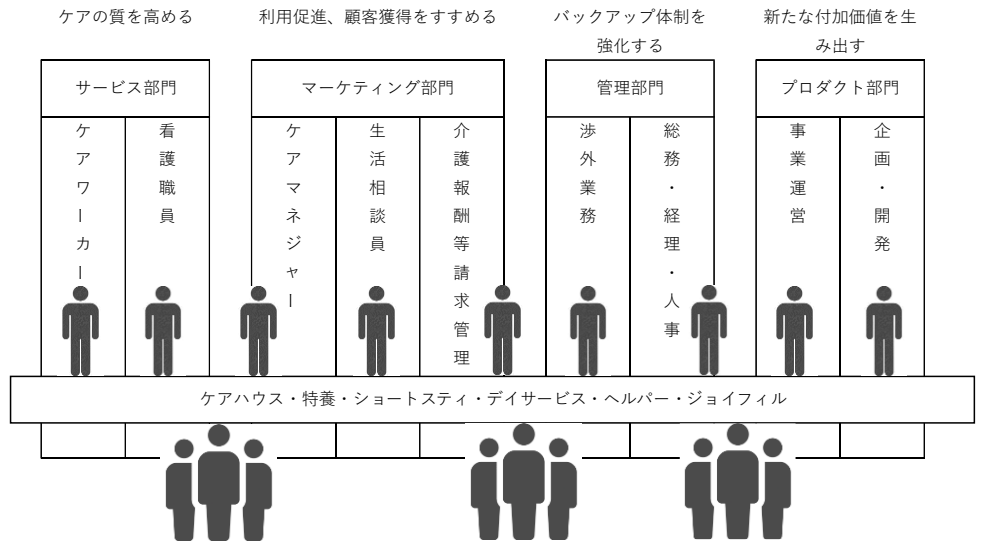
## 「多様性×未来=新しい組織」

アドミニストレイティブマネジャー 杉本匡子

これまでの組織では、それぞれのセクションが事業単位での専門性を活かして運営してきました。しかし、社会福祉を取り巻く環境が大きく変化する中、より柔軟かつ迅速な対応が求められています。そこで多様な視点から課題解決に取り組むことができるよう、2024年度事業計画に基づき、8月からマトリクス組織への移行を進めてきました。(下図)

これは従来の縦割り組織から視点を変え、事業と専門性の役割を融合することで、個々の強みを活かしながら、より広い視野で組織全体を動かしていくことを目的としています。これにより、人材の多様性を最大限に活かし、

それぞれの能力を伸ばす環境を整えます。今までは、それぞれのセクションで仕事を進めることが中心でしたが、これからは、事業の枠組みを越えて協力し合い、新しいアイデアを生み出す組織を目指していきます。そして互いに学び合い、成長し合えるような、温かいチームづくりを推進していきたいと考えています。



今年度の事業計画でのもう一つの目玉企画は、るうてるホームでこれから働く職員に大切にしてもらいたい内容をハンドブックにして伝えよう、というものです。来年3月完成を目指して現在プロジェクト進行中です！

\*\*\*\*\*

## 「るうてるホームらしさを詰め込んで」

るうてるホームは来年で60周年を迎えます。るうてるホームの中で大切にしてきたこと、基本としてきたことなどを振り返り、いつでも立ち返ることが出来るものとしてのハンドブックの作成に取り組んでいます。

これまでのるうてるホームの歴史から、歴代の先輩方が積み上げてきた想いを形にして次に繋げるものとなることを目指し、様々な方々にご協力いただきながら進めています。

このハンドブックが新職員の方にはるうてるホームを深く知る機会となり、時に励ましになり、働く力となることを願っています。また今を歩む私たちの内なる泉となり、変わらない理念、紡いできた歴史と共に原点に立ち返り、未来へと向かって行く力になると信じています。

どのような出来栄になるのでしょうか、どうぞ楽しみにお待ちください。(坂本いづみ)

## 「60周年記念プロジェクト企画」

2025年には、るうてるホームもいよいよ「還暦」になります。還暦とはもう一度生まれ変わることと言われていますが、私たちの理念でもある「目の前の人に何ができるか」を再確認し、見つめ直す機会ととらえ、「REBORN」の想いを持って取り組みを行います。

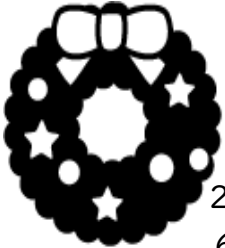
プロジェクトのテーマは、「るうてるケアの継承～千年後の世界に向けて～」。千年という数字は「未来」、「永遠」、「いつの時代」も「これからも」を具体として表したものです。遠い未来である時を経ても、私たちの理念を体現した「るうてるケア」を不変の真理として世界に広げて

いく感覚を、60周年という記念の年に職員、お客様、地域でかかわるすべての方々と共有していきたいとの願いを込めました。

「るうてるケア」の神髄である理念について、大柴理事長と若手世代の牧師先生方をお招きし、それぞれの実践を踏まえての鼎談を企画しております。

私たちひとり一人が自分に向き合い、考え続けることができる大きなヒントとなるように期待をもちます。

(高田真希・大野原ひとみ・上川美佐子)



### -後援会ご献金感謝報告-

2024年7月10日から2024年11月30日までの献金総合計は、668,777円ございました。多額のご献金に感謝申し上げます。今後とも皆様のご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



今年度のスピリチュアルケア研修は10月18日に上智大学グリーンケア研究所中井珠恵先生により行いました

\*\*\*\*\*

今回スピリチュアルケア研修会に参加し、貴重な学びの時を持つことができました。特に印象に残ったのが、お話を聴くということは話し手の思いやりがあって成り立つのだということでした。

現在私はケアハウスで働かせていただいています。その中で日常生活での課題や希望について、利用者の皆様に聞き取りをする機会がありました。その時考えていたことは、「なるべく相手の目を見て、傾聴の心をもって」といった自分自身の姿勢や心構えについてでした。しかし実際お話を聴いていくと、今の悩みだけでなくご自身の過去についても話して下さる方がたくさんいらっしゃいました。どうしてお話しして下さったのか。それは、今なぜそのような悩みを持っているのかをより分かり易く伝え

るために、聴き手である私のことを気遣ってくださったからなのではないかと思いました。そして時には、ご自身のつらい過去についてもお話しして下さる方までいらっしゃいました。そこには私の話を聴くための心遣いより、はるかに大きな思いやりの心がありました。

話を聴くことは、聴く側の「聴こう」とする思いやりだけでなく、話す側の「話をしよう」という思いやりによって成り立つ。今回のスピリチュアル研修では、あの時の経験はまさにそのことを表していたのだと気づかされました。

このホームにある「支えられつつ支えられて」という言葉の意味についても改めて、そしてより深く理解することのできた今回の研修に参加できたことを心から感謝いたします。

(鷲見和哉)



### 後援会ニュースをリニューアルしました！（編集後記）

1964年7月に第1号を発刊してから、ずっとB5サイズで発行してまいりました。ホームにある印刷機がAサイズに対応していないことが大きな理由だったのですが、文字が小さく読みにくさを解消するために、この度Aサイズにリニューアルすることとしました。リニューアルするにあたっては愛称を募集し、この153号から「後援会ニュース おりーぶ」という名称で発行いたします。

過去を振り返ってみますと、第1号はシンプルなタイトルでした(図1)。当時は大阪教会にある大阪軽費老人ホーム設立委員会が発行していました。2000年8月に発行された第80号からは「後援会ニュース」というタイトルが付け加えられました。当時は紙を切り貼りして作った、なんとも手作り感のあるものですね(図2)。2001年12月発行の第85号からはパソコンが活躍している様子で飾り枠付きのタイトルになりました(図3)。2015年12月発行の第135号からは法人の新しいロゴマークが採用され、洗練されたタイトルとなりました(図4)。

このように60年にわたって多くの方々にお読みいただいた「後援会ニュース」は、これからもホームの出来事やトピックスなどをたくさん発信していきたいと思っております。引き続きご支援いただきますよう、よろしく願いいたします。(石倉智史)

